

都心のまちづくり“ひろしまワールドカフェ”「みんなで話そう～だえんの未来～」 トークセッション 発言概要

■ 山田コーディネーター

皆様にまちづくりをより身近に感じていただき、関心を持っていただいた上で、今県と市が作ろうとしている「都心活性化プラン」で描く都心の未来や将来像に、皆様の御意見、御提案を反映させることが、今回の目的です。

「広島之都心の魅力」「将来への想い」をパネリストの皆さまにお聞きして、会場の皆さまが都心について考えるきっかけづくりにしてもらいたいと思います。

「広島っていいな、と思った体験や思い出」

■ 山田コーディネーター

都心がテーマなので、広島之都心の良い所を含めて広島之都心のこういうところが良いというのを話していただきたいと思います。

■ 野村さん

30年近く広島にいます。平成元年に広島に来て、東京の駒沢大学から広島に来ました。生まれは大分で、東京に行っているんなものが揃ってました。高いビルがあり、色々な誘惑もあった中で、4年間を過ごし、就職先としてその後広島へ来ました。田舎の人間が言うのもなんですが、そのとき感じたことは、田舎だな、と。

しかしその後、年々生活していく中で、全てのものがコンパクトに集まっていっていいなと感じるようになりました。

試合で関東や県外に行くこともたくさんあり、いろんな施設に行くのに時間がかかることも経験もしていますが、広島の場合はどこに行くのも公共交通機関を使ってどこにでも行けます。

自然もあるし、結婚して子供ができた後は、キャンプに行ったり、公園のような子供と触れ合う場所も身近にたくさんあります。東京だとなかなかそうはいかないので広島の良いさを、歳を重ねるごとに感じます。若いころは都会に行きたい、東京ドームや甲子園でプレーしたいなと思うことはありましたが、最近では、年々地元にいることが好きになったし、便利だと思うようになりました。

■ 松本さん

湯崎県知事・松井市長・元カープの野村監督とお話ができることがすごいなと思います。

皆さんの声を聞いていただけることはすごいなと思います。

生まれも育ちも広島で、小さい時から広島市民球場へ連れて行かれてカープを応援して広島カープはすごい存在。昭和50年広島カープが初優勝した時の投手、渡辺弘基さんと一緒に仕事をさせていただいています。現在68歳で、御出身は小倉ですが、広島カープ時代の思い出と、住みやすいということで現在も広島に住んでいます。

小さい頃から、カープが勝てば両親の機嫌がよいという経験は、皆さんもあると思う。

楕円形の広島市中心部は、市民球場によく来ていたという思い出があります。デイゲームの帰り道、カープが勝てば、そごうでごちそうを食べて帰る、負ければそのまま連れて帰られるなど、カープの勝利が小さいころの生活を豊かにしてくれていました。

昨日も皆実高校の先輩である奥田民生さんがマツダスタジアムでコンサートをされましたが、3万人の方がいろんなところから来ていました。一人で弾き語りみたいな感じのライブでしたが、みなさんが広島にきていいまちだと思ってくださることはいいことだと思います。

野村さんが、コンパクトなまちとおっしゃっていましたが学生時代を過ごした者としては、デートといえ、本通りを何往復もする、これこそがデートでした。本通り、あの界限は、青春のスポットでもありました。

何かあれば街なかに遊びに行く、ということが広島人の楽しみでもあり、喜びでもあったような気がします。

今日は、その未来をみなさまとお話しできるのも楽しみにして参りました。

■ 山田コーディネーター

私自身は広島出身ではありませんが、30年近く広島に住んでいます。

「広島県民であることを自覚し誇りに思い、それを満喫するならカープ観戦」と言われました。カープは広島の宝ですね。

野村さんからいただいた「コンパクト」いう点に関連して、広島自体は「日本の縮図だよ」と言われたことがあります。広島市中心市街地も同じです。川や海が近いし、都心機能も充実しているという、二つのうまみを享受できます。

皆様にも、広島のココがいいよ、という思いがたくさんあると思います。県と市がつくる「都心活性化プラン」の目的は、今よりもっとよいまちをつくるということ。将来像をみんなで共有していこう、ということですので、「魅力的な都心とは何か」ということを聞きたいと思います。

パネリストの皆様には「広島之都心がもっとこうなったらいい。」と感じておられることとお話ください。できれば、仕事や旅行でいったあるまちのこういうところが素敵でしたので広島も参考にしたらよいのではないかと具体的なイメージがあればそのお話もしていただきたいと思います。

広島之宝であるカープが強いと都心も活性化されます。来シーズンのカープも織り交ぜながらお話をお伺いできますか。

「魅力的な都心とは」

■ 野村さん

プレーヤー、監督時代と、常にプレッシャーの中で戦いながらカープが勝てば景気がよくなる、負けると悪くなるということ意識しながら戦っていたので、その言葉を聞くと、きゅっと引き締まります。

広島というまちはいろんなスポーツが盛んで、サンフレッチェも大一番を迎えておりますし、

カープも、非常に若い選手がたくさんできて盛り上がっておりますし、「カープ女子」という言葉のように東京から新幹線を使ってみんなで乗合で広島に集まってくるという、当時では全く考えられない事が今起こっています。本当にありがたい。

ファンが応援してくれて、お好み焼を食べて帰ろう、もみじまんじゅうを買って帰ろうとか、たくさんの方が来られることはいいことだと思います。

スポーツを職業としている我々からしたら、自分たちができることはとにかく勝つことだという事、とにかくファンの方には球場に来てもらい、そして注目してもらうことが一番です。

私も今評論の仕事をしておりますので、開幕前に一番にカープを上げたのですが、今年は非常に残念ながら、もう一步のところまでいったんですが、残念な結果に終わりました。ただ来年は緒方監督2年目ですし、私もあつという間に、何ができたかわからないままに1年が終わりました。が、秋季キャンプの情報を聴いている限り、非常に厳しい練習をして選手・監督の合言葉として、最後の一戦、阪神に負けたあの一戦を絶対に忘れないぞ、と秋季キャンプを送ってきたみたいなので、期待しています。

最終戦、大瀬良が打たれましたが、私としては涙を見せてほしくはなかったですが、その悔しい思いをたぶん先発で倍返ししてくれるのでないかと思います。

新聞紙上などで見ますと、また一人メジャーリーグに行きそうなので、そういったところを穴埋めしてくれればいいかなと思います。

サンフレッチェがチャンピオンになって景気をつけて1年を終わってくれれば、もっと盛り上がるのではないかと思います。

■ 松本さん

来シーズンのカープのことを野村さんからお聞き出来るなんて。奥田民生さんのコンサートでも前田選手、大瀬良選手が出てきて奥田民生さんがバッターで打つということがありました。前田健太さんは、行かれるんですかね〜。本当にマツダスタジアム盛り上がりました。

都心の未来として、どのようになったらよいかということですが、旧市民球場跡地ではいろんなイベントがあってそこにみんなが遊びに行く、というのが広島ではちょっとしたブームで、私も家族で行ったりします。そういった集まる場所を作っていただきたいなと思います。

私の子供も来年小学校、今、年長さんですが、その子供を連れて行ける場所、昔だったら市民球場だったり、デパートの屋上だったり、本通りを、手をつないで歩くなど。「歩いて楽しい本通り」っていう歌があったのをご存じですよね。本通りは、歩くだけでも楽しい場所だったので、そんな風に家族みんなで集まれる場所、お父さんお母さんだけでなく、おじいちゃんおばあちゃんも一緒に集まれる場所であればよいと思います。

イベントでもいいのですが、常時そこにいけば何か楽しめる場所がほしいです。広島は特に、遊びに連れていける場所が少ない。お母様方と話していてもいつも話題になり、いつも、どこに行く？マリーナホップ？縮景園が意外にいいよ、などいろいろ話が出ます。

そういう場所が楕円形の中にあれば都心の未来も広がるのではないかと思います。そういう場所ができればよいと思いますがどうでしょうか。

■ 山田コーディネーター

スポーツによるまちの活性化への期待，家族やお年寄りや子供たちと一緒に集える場所の必要性といったご意見がありました。こうしたお二人の話を踏まえて湯崎知事，松井市長から「魅力的な都心」についての想いをお聞かせいただきたいと思います。

■ 湯崎知事

広島っていいところと，そうでないところが共存しています。

野村さんが言っていた「田舎」という部分もあります。例えば私も東京に20年くらい住んでいて，行った瞬間も，帰る時にも思いましたが水と山がないんです。広島のように，どこに行っても水があり川があり，どこにいても山が見えるというのは他の地域にはないと思います。大阪に行ってもずっと平野で見えないし川も見えない。東京でも川が汚くて見られない感じなので，広島はすばらしいと思います。しかし他方で，例えば広島は，福岡や仙台，札幌と比較されるのですが，何か足りないものがあるのではないかと思います。それが何なのか，というのはなかなかわかりにくく難しいと思いますが。

人口がこれから大きく減って都市圏で生き残っていくことが課題になっていきますが，放っておいてもどんどん発展するという時代ではなくなりました。東京や，九州全体から集まる福岡などは集中していますが，広島もその中で中国・四国地域の拠点都市として，しっかりと牽引していかないと，力を失ってしまう恐れがあります。

そのためにこういう活動をして，みんなでビジョンを共有して作っていかうと思います。そこに向けてかなりの長い時間はかかりますが，みんなで力を合わせて作っていかなければならない。この後，ワールドカフェもあるのでみなさんの意見をぶつけてほしいと思います。

こういう活動をいろんな場所でやっていきたいのですが，私自身どういう風になつたらいいのか，というと，私は，さっき小林先生のお話にあった丸の内の仲通りで働いていましたが，90年代は本当に人がいないところでした。事務所のビルが並んでいて，日本の大企業が一番集積しているところで，だからこそ土日になると人がまったくいない。平日も人が歩いていないので，歩いて楽しいとは全く思えないところでしたが，10年くらいかけて大きく変わった。1階に公共空間があると，お店が多くなりビルに入りやすくなりました。

これとは全く違う話ですが，長崎も何か楽しい。何でなんだろうと思ったら，歩いていて建物にアクセスしやすいし，お店が並んでいてオープンなんですよ。広島は，オフィスがあったり，マンションの入り口が多いのに対して，ウエルカムな感じなのが丸の内の仲通りとか長崎とか。そういう所と違いを感じます。

歩いて楽しい本通り，もちろん市民もそうですが観光客の方にも歩いて楽しいと思ってほしいです。

あとは機能面と景観的な部分。機能面は，商業だったりサービスなど集積をしなくてはいけなくて，アクセシブルというかアクセスしやすいものになっているべきだと思います。あとは，景観の部分はどうするかということ。大変だが，例えばすごく素敵な街はヨーロッパの統一感ある街並み。日本でロンドンみたいな街並みは石づくりも真似はできないし真似をするのがよいわけではありませんが。サンフランシスコも好きなんですけどビクトリア調の家が並んでいて統一感

もありますし、やっぱり広島ってこうだよ、っていう広島らしい統一感が出来ればよいと思います。

■ 山田コーディネーター

小林先生、知事から「ウエルカムなまちの空間づくり」という話がありましたが、いかがですか。

■ 小林コメンテーター

横浜の中心部は、広島と同じようにマンションが一時急に入ってきた時がありました。具体的には関内（かんない）地区、伊勢佐木町（いせざきちょう）などマンションが入ると、1階にマンションの入口のみができたり、駐車場入口ができたりなど、商店街のまちなみを台無しにするので、マンションの1階には商業施設を入れることを義務づけ、一方で上階のマンションなどの容積を増しできる条例を作りました。事業所には、1階は商業施設を入れて、駐車場などができるだけ排除し、車は裏通りなどの他のところから入るなどすることで一定の歩いて楽しい空間をつくるということをやってきました。

丸の内は、大きいビルの中には誰でも入れる貫通路を作り、抜けられるようにする、その貫通路にショップをつける、ビルの中がまちのような仕組みを作りました。

先日アメリカに行った時に、シカゴが一生懸命中心部活性化のまちづくりをやっていました。具体的にはビルとビルの上に小さな路地があって、NPOがその路地を魅力的な空間に作り替えるという活動です。イベントを路地でやることで皆さんの記憶に残る楽しい空間をつくるということを積極的にやっている、という事例がありました。特にお金をかけず仕掛けをやることで楽しいまちになるのではないかなと思います。

■ 松井市長

（スライド1）今お話を聞く中で、まちづくりをするために、「まち」というのは元々エリアがあって、そこに人がいて、人が単に通過するだけではなくて時間を過ごす、生活をするならコミュニティがある、エリアと人と生活があって初めてまちができると思うんですね。その中で、今人が集えるように、集まるようにということだと思い、（スライドを）用意したんですけども、人が集まる時に、我々の生活を考えたときには、大きく人間の活動を分けて金を稼ぐとかビジネスという目的意識を持った活動形態と、それを稼いで多少なりとも余裕があって、ゆったりと余暇を楽しむ、2つの使い方があるんですけども、都市というのは贅沢でして、その両方がうまく機能するようなものを作ってくれというわけなんですよね。自然の状況は稼いだ人たちが都会からそこにいってお金を落とすならまあいいだろう。実はこの広島というのはコンパクトと言われましたけど、小さいながら、このまちの中で、その2つをやってやろうという非常に意欲的なまちだと私は受け止めています。だからいろんな要素があるんですね。ですけど、どれ1つとしてズドンと完結していない、みんなちょっとずつという。それは今言った贅沢なことをやろうとするから限界があるんですけども、その多様性を1つの小さなまちで味わえるという、よそのまちでは味わえない特色をしか

りと大事にしたいと思っていて、私はそれを広島のみちづくりの基本にしたいなと思うわけです。ですから、今両方の機能を持たせるとすると、あとはエリア設定する。たとえばデルタ地の中で広島駅の方あるいは紙屋町、ほかにもいろんなところがあるんですけども、例えばデルタ地の中で、我々の地域がこんな役割をする地域にしようじゃないかということ、少し皆さんで合意するというふうにすればどうでしょうね。ぐるっと回れるとかというように。そしてとてもコンパクトなまちですから、もちろん公共交通などということで、プライベートでどんどん走り回るんじゃなくてみんなでゆったりと。さらにはうまく歩いて行ける、自分の足で確かめられるような道作りをもう少しして、そして広いエリアからのアクセスを良くして、この領域の中では歩く、あるいは自転車ぐらいで行けるというのをメインにしながら、かつ都市の機能を落とさないように車なども入れるという。理想はそんなところなんですけれども、そういった要素は随所にあるんですけども、これがまた全体統一がとれていないんですけども、少しそれを明確に打ち出してやれたらなというふうに実は思っておるところであります。

(スライド2) そして、それを証明するわけではないんですけども、見てください、この上の図は、昭和初期の広島を俯瞰した絵です、昭和5年ぐらいですけどね。あえて言うと、広島ってこんなまちだということをおうとした人がいるんですよ。あと宮島が自分のまの後ろの庭みたいになっていて、こういうイメージ、間違いじゃない。自然環境の豊かさや歴史伝統もある。駅の裏の二葉山も。そしてお城を大きく書いて、城下町のつくりと、こういうイメージをまず持って、このまちを先ほども申し上げたように機能分化させていくことはできないかなと。下の左の都心部がこうなっていますけれども、それぞれ先ほど言われたように、今あるビル群などももう少し人がアクセスしやすいように変えていくとか、新しく作る時は、例えばビルの建て方、土地いっぱい建っているものを少しひっこめて公共財にして、みんなそこで集えるようにというようなことを了解していただく、そのために例えば市独自の条例を作ってみんなで申し合わせるとかいうことができたかなと。そういうことをやれば、まだまだ魅力的なまちづくり、あまり意識していないかもしれませんが、必ずできていく。そこで、着目して少しでも、と思っているのが、河岸緑地などはすでに先輩諸氏がやっただいておいて、終戦後すぐにバラックなどがずっと立ち並んでいた川べりですけども、それにいろんなお話をして立ち退いてもらって空いたわけですから、じゃあ有効活用しようということで。都市部でこういった、川に直接アクセスできるような川のつくりをしている都市はものすごく珍しくてですね、ヨーロッパの都市なんていうのは川を石とコンクリートでがっちり固めて、飛び降りないと川にアクセスできないようなまちがいっぱいなんですけれども、この広島は都市ですね、だらだらと、しかも水に触れるような作りを随所にやっている、雁木もあるところもあるでしょう。これなんかは二度とヨーロッパの都市は絶対戻せませんからね。大事にしたいと思うんですね。

(スライド3) その中で、いろいろ議論して知事と合意いたしまして、ひとついいモデルを作ろうということで、陸の玄関の整備が始まりましたので、降りてすぐの猿猴川、猿猴橋、これをみんなが見ていいなと思えるものにしたいということで、今「美しい川」の復活をやっています。今までのことでもありますので垢を落とすという意味で川のヘッドロを取ってもらう。

そしてあそこらへんに不法係留がありましたけれども、県の力でほぼなくなりました。さらに今度は、川岸は大体市の役割ですから、もっともっと花とか緑ですね、みんなが集えるようなつくりに変えていく。そして橋も大正時代の古い姿も風情があったということで、地元の方々がこの橋を戻してみたいと言われていたので、じゃあ市の仕事として請け負って、単に欄干を直すだけでなく橋の構造ももう一回戻そうということで今やっています。そしてできたら、この川岸から雁木に船が出て、縮景園の方は、裏口を知事に開けてもらいましたけれどもね、縮景園に寄って、平和公園に行く。要するに川伝いで、満潮時には、春は桜を見ながらずっと市内を行こうと思います。もっと積極的にアピールするようにしたいなと思っております。

(スライド4) そしてもうひとつの大きな、先ほど申し上げた「ゆっくりまちを歩く」という、昔江戸時代西国街道といたらこの黄色でやっているのが、実は広島県の西国街道、東からここを抜けて西に行く、西からここを抜けていく。大名行列なんていうのは、西の人はここを通って行ったんですね。その橋が、猿猴橋と京橋と、それから元安橋、3つあるんですよ。この橋をまず少し趣のあるものにして、この通りを、もちろん機能を落とさないように人が通っても楽しめるようなまちにする。そうすると今ある本通のところちょうど入っていくんですね。今そこが本通商店街ですから、ぐるぐる回っている人々を拒絶することなく、人に入ってもらわないと商売になりませんからね、いかに取り込むかというような作りになっていますから、その分をもう少しこの間にに入れていただいて、自転車などを通りやすくするという目標を立ててまちづくりをすれば、先ほど申し上げた機能を少し区分けしながら、ここの両サイドはビジネス街がありますけれども、ここの部分は少し生活の息抜きをするスペースとして、ビジネスの間を通すというふうなまちとしてやっていけたらなと思うんですけれども。これも地元の方々の理解がないとできません。あらゆる面で、所有権等がありますから、所有者の方が、いやいや自分はそういうの趣味じゃないんだけどとなると、確におっしゃるとおり、となりますので、今申し上げたことを、まあそう言わずにみんなでも一回作ってみようじゃないかと、こういうふうな。ところが先ほど言われた、ヨーロッパの都市が同じビル群とか建物が並んでいるというのは、決して日本人よりヨーロッパの方々の理解度が高いというわけではなく、私のお勉強した限りでは、工業期に入りまして近代建物を作るところに、当時まだまだ設計図というんですかね、一つのビルを作るのに設計図の代金が高かったんですよ。そうすると、ある人がいいビル群の設計図を作ったらですね、それをコピーする方が安いものですから、その所有者が同じものをダダダッと一定の区間同じようなものができた、ということで、結構趣味の問題ではなくて金目の問題で同じ時代にできたものは似たようなビル群でできていると。それで石造りですから長いんですけれども、日本の場合は木造ですから、信州中央道あたりに旅籠屋など江戸期の木造が残っているものがある、街中にその当時日本の場合はそういう家屋を作る職人さんがいて、その人が作ったものが、「次俺もこういうものを作ってやる」とか言って、同じ並びになったと思うんですね。そういう意味で人々の意識プラス当時の技術水準とかいうものを影響しながらまちなみというものはできるということがわかっているんですけれども、今いろんなことができますから、むしろ我々の意識面で多少統一するということをみんなで申し合わせて、このブロッ

クはこんなものということをやるということはますます重要になってきていると思うんですね。そういう意味で大いにこういった皆さん方が共通の価値観、価値観が違ってても合わせられるところを探し出して同じようなまちを作ってみようじゃないかということのをこれからうんとやっていただければ、先ほど申し上げたコンパクトだけれど決して過不足のない、満足度の高い広島ができるんじゃないかというふうに思います。

(スライド5) これは先ほど入れたものをイメージして、こういう絵図面ができればなど思うことなんですけれども。こういう地図をかいてみんなに鳥瞰図です、小さいところだけじゃなくてこんなになるんです、というような絵を作ってくださいと頼んでいるんですけれども、出来上がったら多くのところに宣伝するといいますか、広島ってこんなまちなんだということをやれないかなというふうな思いを持っているところでもあります。以上です。

■ 山田コーディネーター

西国街道はその辺を歩いていてもあまり自分が西国街道を歩いているということを認識しないのですが、こうして拝見すると西国街道沿いにはたくさんの歴史文化の地域資源が散らばっているんですね。

市民の皆様がそれを知って、それをどう活用するかが必要だと思います。

■ 小林コメントーター

エリアマネジメントの大きな目的は、地域の方々がその地域をどうするかということについて同じ方向を向くということです。先ほど市長さんが言われていたことと同じです。

景観面から皆でこういう風に持っていこう、ということは、私の言葉で言えばハードなルールを作ってそうでないとだめだということではなくて、こういう方向を向いて、それを「ゆるり」としたルールとして皆で合意しましょうということです。例えばこういう絵をかいたら皆でその絵に合意して、みんなでやっっていこうというまちづくりがこれから重要だと思います。

それがエリアマネジメントであり、行政がルール、条例を作って、このとおりにしなさい、というのは、これからのまちづくりの中心的な仕組みではないと思います。

この地域にこういう共通の資源があるからこういける、市長がおっしゃった西国街道があるから、これは共通の資源があるからそれを活かしてまちづくりをしよう、と共通の認識、方向性を持ってまちづくりをしようということです。

市長さんがおっしゃったように種（地域の資源）をベースにまちをつくることが重要です。

随分前に新潟市で調査したときのこと。新潟市の高校生に、新潟市の一番嫌いなところを尋ねたら、その高校生が新潟市を歩いていると、お前の息子がどこそこを歩いていたと近所の人から言われることだという。都会は、ある意味で匿名性があるという部分も必要なもので、西国街道は駅から相当遠くまで一定のにぎわいの空間なり、一定の楽しい空間をつくって、お前の息子が本通りという限定的なまちにいた、というだけではないまちをつくるということも重要だと思います。そのことを付け加えさせていただきます。